

様式1 (視察用)

## 会派行政視察報告書

平成26年度会派 公明名取 の行政視察研修を、平成26年8月5日(火)から 8月7日(木)までの 2泊 3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

平成26年 8月15日

名取市議会議長 山口 實 様

会派名 公明名取  
代表 菊地 忍



### 記

1 期 日 平成26年 8月 5日 (火) ~ 8月 7日 (木)

2 参加人員 1 名 (氏名) 星居 敬子

3 視 察 先 (1) 全国市議会議長会研究フォーラム in 岡山  
(2)  
(3)

4 行 程 表 別紙のとおり

5 調 査 事 項 別紙のとおり

6 所 感 別紙のとおり



# 第9回全国市議会議長会研究フォーラムイン岡山

## 研修行程表

8月5日

仙台空港発12:10—広島空港着13:45

広島空港発14:30—リムジンバス(45分)—広島  
駅新幹線口着15:15—徒歩(12分)—広島駅  
着15:27—— 広島駅発15:32——のぞみ  
38号(41分)—岡山駅着16:13—徒歩—ホ  
テルエリアワン岡山泊

8月6日(水) 13:00開会岡山シンホニーホール～

第1部 基調講演「人口減少時代と地方議会の在り方」

第2部 パネルディスカッション「文献改革20年と地方議会のありか  
た」

第3部 意見交換会

8月7日(木)

第4部 課題討議「議会のありかたについて」

第5部 視察

岡山駅発16:12——さくら563号(40分)—広島駅16:5  
2分着 広島駅新幹線口17:00発——リムジンバス(45分)—広  
島空港着17:45 広島空港発19:35——仙台空港着21:00

第9回  
全国市議会議長会  
研究フォーラムイン岡山

研修復命書

日 平成26年8月6日(水)・7日(木)

会場 岡山シンフォニーホール

公明名取

## 13:20～ 基調講演

### 「人口減少時代と地方議会の有り方」

講師 増田寛也 氏

#### 内容要約

- 1 減少要因は20～39歳の若年女性の減少と地方から大都市への人口流出する事が大きな要因
- 2 全国1779自治体の内896自治体が消滅可能性自治体となり、其の内523市町村は人口が約1万人未満となると予想されている。
- 3 そこで、少子化対策と都市一極集中対策を早急に同時に行う必要がある。
- 4 この問題点を国民全体で認識し、適切な対策を取れば、人口の急減を抑える事ができて、今後、安定的な人口維持を保つ事ができる。
- 4 人口が減少する事は何が悪い？ それは、経済が急激にしばまる事→極点社会は何としても避けるべき。
- 5 人口減少を回避し、維持するためには、直ちに2.8～2.9の出生率が必要となる。しかし、現実には難しい。
- 6 望ましい未来像に向けた政策推進として、東京一極集中を止めて、少子化と人口減少を克服する総合的な政策が必要で、その司令塔となる本部を置き、政府一体となって取り組むべき。
- 7 晩婚・晩産を防ぐため、20代で結婚や、出産ができる社会環境を整備する事が重要。
- 8 地方へ人を呼び込む魅力を作り、地方大学が特色ある大学へと努力して、東京一極に若者が集まらないようまた、地方に働く環境の整備が必要。
- 9 地方の定住自立を進める事が大事。

### 『分権改革20年と地方議会のあり方』

## 14:40～ パネルディスカッション

コーディネーター 牛山 久仁彦 氏

パネリスト 林 宜嗣 氏

保坂 邦夫 氏

城本 勝 氏

則武 宣弘 氏

## 内容要約

- 林氏
- 1 議員が多くても仕事をしていれば、多すぎるものではない。少なくとも、仕事をしないのは、ダメ。人口が減少すると、議員もへる。
  - 2 議会は首長のサポート集団ではダメ。長との関係は緊張関係がよい。
  - 3 財政危機の原因は人口減少にある。
  - 4 財政力指数は、人口現象率の大きいところほど低い。
  - 5 地域住民の命を守るため、地域に病院が無くなってはいけない。
  - 6 負担がかかっても、生活の場としての自治体のあり方を議論しなくてはならない。
  - 7 地域の活性化を図るために、地域経営あるいは都市経営を自治体は行わなければならない。  
つまり、自治体はガバメントの時代から、地域経営が十分にできるガバナンスの時代に入ってきており、そのために議会がしっかり、それに応えなければならない。
- 保坂氏
- 1 今、まさに地方議会は、最大の危機を迎えている。
  - 2 議会の力、権限をもう一度再確認をして行く。権限を持っていながら、発揮しないしていると、議会は何をやっている。無くてよいとなる。権限と役割、持っている力を見直し、再確認をすべき。
  - 3 政策提言機能を持つ議会にかわるべき。→政策議会に形を変えるべき。
  - 4 議会としての意思をしっかりと統一する事で、発揮すべき権限が生まれる。
- 土山
- 1 地方分権により、より議会が自治体において果たす役割りは大きくなった。
  - 2 地域の課題の解決に取り組む主体であると考ええると、機能は大きくなる。
  - ③わが町のどの課題を、どう解決するか、決断する事が重要になる。その決断を公開の議場で、対等なメンバーが多様な意見をだし、議論し、集約し意思決定を行えるには、議会だけ。
  - 4 まとまれば強い議会だが、議員の集団として纏まらないと、とても弱い存在。ここに大きな課題がある。
- 城本
- 1 議会が一住民から、遠い存在だと思われ、不信感が有る。
  - 2 其のために、有権者に議員の動きを見えるようにする。また、住民の目をもっと意識する。→不祥事が減り、議論や、活動が活発になる。
  - 3 情報公開や、議会での情報を広げ、住民の意見をもっと吸い上げ、酌み取り、議会報告会や、インターネット中継などや、双方向性ある改革をすべき。
- 則武
- 1 今、議会に求められているのは、オール議会力。個人・会派を越えて、組織として、地域の声を引き。そして動く事。
  - 2 多様な意見を集約し、問題をあぶり出し、政策提言を行うのが、議会の役割。
  - 3 住民自らが主役になり、地域の声は強い事に住民が気付く事も大切。
  - 4 オール議会から、住民・首長が一体となった、オール地域力を最終的に目指し、チェック機能や、課題の提示、議会刊討議を行って、議会として意思集約し、そして提案へと導く役割を果たすべき。

## 議会の役割りとは

1 自治体をどう変えていくのか？

行政運営機能から、地域経営に変わり、ピンチをチャンスに議会が変えるべき。

2 議会としての意思形成とその表出する伝える事が重要。

3 意思決定の仕組みをどう行ったかの過程を可視化するべき。

4 意思形成が重要。

8月7日（木）

9：00～ 課題討議

「議会のあり方について」

コーディネーター 横山 清孝 氏

事例報告

1 流山市市議会議長 海老原 功一氏

2 大津市議会前議長 高橋 健二 氏

3 可児市議会議長 川上 文浩 氏

1 流山市

人口171、076人 世帯69、739

改革の出発点は

平成13年地方分権検討会議設置→時代に合った議会のあり方検討

実現1 対面式演壇導入

2 インターネット中継

3 政治倫理条例の制定

4 一問一答方式の導入

市民が開かれた議会をめざし、常に市民が何を求めているか模索し市民に成果を出し続けてきた。

1 委員会しつはパソコン持ち込み。

2 スマートホンによる電子採決。

3 本会議場にプロジェクター・スクリーン導入

2 大津市

事例1 質問方式見直し→一問一答

2 政務調査費のコンプライアンス向上→1円以上から

3 大学とのパートナーシップ協定

④ 通念議会の導入

大学との連携による政策提言でいじめ防止条例制定

議会 b c p 策定・防災基本条例の検討

### 3 可児市

事例1 議会改革のためのアンケート2000人調査

そして⇒信頼される議会を目指して改革を行った。

1 議会報告会→地域懇談会→高等学校へキャリア教育支援

2 高校生議会開催→キャリア教育支援事業に繋がった

3 議会改革調査研究プロジェクトチーム設置

キャリア教育を行うメリットは

議会を身近に感じてもらえる。きっかけになり若い世代の考えを知り将来の可児市のまちづくりに参考になる。また、様々な職種の方との意見交換ができる。

### 考察

どこの議会も同じ悩みを持っている事がわかったが、しかし、先進的な取り組みをしている議会は早くから模索して、大学との連携で政策提言や、条例を策定しており、市民に応える改革を進めていた。我が名取はともう反省しかりで、大変恥ずかしくなった。また、政務調査費を使ってアンケート調査を行い、政策提言（マニフェスト）を作りその実現に努力した会派もあって驚いた。とにかく、議会の意思の統一が一番大事であることを学んだ名取に於いてもすぐ実行したいと思った。